

Title	ジャポニスムに関するヴェネツィア未公開書簡： フィリッポ・グリマーニからエドモン・ド・ゴンクールへ (2通)
Sub Title	Correspondance vénitienne : deux lettres de Filippo Grimani à Edmond de Goncourt
Author	山本, 武男(Yamamoto, Takeo)
Publisher	慶應義塾大学日吉紀要刊行委員会
Publication year	2023
Jtitle	慶應義塾大学日吉紀要. 人文科学 (The Hiyoshi review of the humanities). No.38 (2023.) ,p.133- 144
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN10065043-20230630-0133

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

ジャポニスムに関する ヴェネツィア未公開書簡

フィリップ・グリマーニから
エドモン・ド・ゴンクールへ（2通）

山 本 武 男

第二回ヴェネツィア・ビエンナーレへの日本美術参加の過程を詳述した古典的な研究業績に、石井元章氏の『ヴェネツィアと日本—美術をめぐる交流』（ブリュッケ、1999年）があり、そこには既に、ヴェネツィア側から、エドモン・ド・ゴンクールに日本セクションの監督担当の依頼があり、それが実現しなかった旨、記されている。その記述は、ジョヴァンニ・ペテルノッリ氏の林忠正からエドモン・ド・ゴンクールに宛てた未公開書簡の研究⁽¹⁾に導かれて、パリのフランス国立図書館で確認した上でなされたことも明記されている⁽²⁾。石井氏はヴェネツィア側が当時フランス、イギリ

(1) ジョヴァンニ・ペテルノッリ、近藤映子訳「エドモン・ド・ゴンクール宛の林忠正未刊書簡について」、『浮世絵芸術』、国際浮世絵学会、62号、1979年、3-15頁、63号、1980年、3-17頁、特に63号の論文13-15頁にヴェネツィア・ビエンナーレを巡るゴンクール＝林書簡のフランス語原文並びに和訳、またそれらの解説が掲載されている。本論文著者はこれらを参照したが、石井元章氏は上記著作中（305頁）以下のイタリア語原文の論文を参照した旨記されている。即ち、Giovanni Peternolli, «Corrispondenza inedita di Hayashi Tadamasu con Edmond de Goncourt», *Atti dell'Accademia delle Scienze dell'Istituto di Bologna, Classe di Scienze Morali*, Anno 72, Rendiconti Vol. LXVI 1977-78, Fascicolo II (31 ottobre 1987), p. 67-108. また以下の著書にもゴンクール＝林の往復書簡が改めて訳出されている。即ち、木々康子編、高頭麻子訳『林忠正宛書簡・資料集』、東京、信山社出版、2003（平成15）年、394-413頁、特にヴェネツィア・ビエンナーレに関する書簡は410-411頁に掲載。

スにいた幾人かのジャポニザンのうち、ゴンクールに白羽の矢を立てたのは、ゴンクールに心酔していたイタリアの作家ヴィットーリオ・ピーカ（1866-1930⁽³⁾）の推挽が大きいだろうと推測している⁽⁴⁾。石井氏はゴンクールの『日記』を基に二人の交流を振り返るのみならず、ピーカの日本美術関連のイタリア語の著作に於いてゴンクールの『歌麿』からの翻訳引用やそれに近い部分が多々見られることなども詳細に実証することでピーカのゴンクールへの崇拜ぶりを証拠立てている⁽⁵⁾。

他方ゴンクール兄弟の著『過ぎし日のイタリア』（1894年刊）の冒頭に献辞として「イタリアに於けるゴンクール主義の愛情深く情熱的な二人の伝播者、フェリーチェ・カメローニ、ヴィットーリオ・ピーカに⁽⁶⁾」とあることから、ゴンクールとピーカの交流の深さは伝わり、石井氏の上記推測を更に裏付けるものと考えられる。また近年では、マルゲリータ・カヴェナゴ氏によるヴィットーリオ・ピーカの、同時代のフランスやその他の国の美術のイタリアへの、また同時代のイタリア美術のフランスへの紹介者としての面に光を当てた論文⁽⁷⁾もあり、そこでもピーカとゴンクールの交流は強調されている⁽⁸⁾。またそこには前述の『過ぎし日のイタリア』をエドモン・ド・ゴンクールがピーカに献じている旨も強調されている⁽⁹⁾。このカヴェナゴ氏の論文は伊仏相互の美術交流に於けるピーカの貢献を詳

(2) 石井元章『ヴェネツィアと日本—美術をめぐる交流』東京、ブリュッケ、1999年、7頁、156頁、164頁参照。

(3) 同上、313頁。

(4) 同上、164頁参照。

(5) 同上、第5章（111-135頁）、特に119-123、133頁参照。

(6) Edmond et Jules de Goncourt, *L'Italie d'hier*, Bruxelles, Édition Complexe, 1992, p. XXVIII 参照。

(7) Margherita Cavenago, « Au-delà des limites géographiques et linguistiques : la critique francophone de Vittorio Pica (1862-1930) », dans Marie Gispert et Catherine Méneux (dir.), *Critiques(s) d'art : nouveaux corpus, nouvelles méthodes*, Paris, site de l'HiCSA, mis en ligne en mars 2019, p. 157-187.

(8) Voir Margherita Cavenago, *op. cit.*, p. 157-158.

(9) Voir *Ibid.*, p. 158.

述したものであり、第二回ヴェネツィア・ビエンナーレへの日本美術の参加を中心としつつも広く日伊相互の美術理解の過程を追った石井元章氏の『ヴェネツィアと日本—美術をめぐる交流』と内容的には対を成すものであり、ピーカの人物像に関しても、相互に補完し得るものと言える。

ところで今日までのところ、パリのフランス国立図書館に保管されているヴェネツィア市長フィリッポ・グリマーニ（1850-1921⁽¹⁰⁾）がエドモン・ド・ゴンクールに宛てた書簡そのものはまだ活字化されて紹介されていない。また、それが2通あったこと、またそれらの日付すらも指摘されていない。即ちこの2通に就いては、その具体的な存在を確認した記述が未だ誰によっても為されていないのである。従って、本論文に於いてそれらの書簡の和訳並びに原文を紹介し、これまでに先行する研究で既に紹介済みのゴンクールの『日記』やゴンクール＝林忠正往復書簡の文脈の中に位置付けてみたい。

十九世紀後半にフランスを始め欧米各国を席卷したジャポニスムを先導したゴンクール兄弟の名前は、先述の石井元章氏の研究に従えば、その崇拜者ヴィットーリオ・ピーカによってイタリアにも轟いた⁽¹¹⁾。1897年の第二回ヴェネツィア・ビエンナーレ開催に当って、日本美術の展示室を設置するに当たり、時のヴェネツィア市長、フィリッポ・グリマーニからエドモン・ド・ゴンクールに宛てて、協力を仰ぐ手紙が届く。『ゴンクールの日記』の1896年3月2日付に以下の記述がある。

「今朝、ヴェネツィア市長から、一通の手紙を受け取った—^{ドージェ}元首の都に於いて、この呼称は奇妙である—が、氏は私に、^{わたくし}ヴェネツィア市が1897年に予定している国際絵画展覧会での日本美術に割り当てられた展示室の指揮、監督を担当するよう依頼して来た⁽¹²⁾。」

(10) *Ibid.*, p. 167.

(11) 石井元章、前掲書、165頁参照。

(12) 当翻訳は以下に拠った。Edmond et Jules de Goncourt, *Journal, Mémoires de la vie littéraire*, Paris, Robert Laffont, 1989, p. 1247. また、ジョヴァンニ・ペテルノッリ、前掲論文、63号、13頁には、近藤映子氏による『日記』の当該

この手紙を受け取った件を、エドモン・ド・ゴンクールは、その日本美術研究の協力者で美術商の林忠正に2通の書簡で伝えた。それらの書簡は何れも日付は無く、名刺の上に認められたものである。1通目ではヴェネツィア市長からの手紙の受領、その中身の概要、更に林に協力を乞いたい旨が記されている。2通目には、ヴェネツィア市長からの手紙そのものを同封した旨が記される。以下に訳出する。まず1通目。

「日付はご自身でお記ください。—1897年に絵画展を予定しているヴェネツィア市長から、日本に関する展示の担当を私に依頼する手紙を受け取りましたが、纏め役に貴兄のことをお伝えしても宜しいでしょうか。—あと、近日中にその手紙を貴兄にお届け致します。—金曜には、劇場には行かれませんか。」

2通目。

「拝啓、こちらがヴェネツィア市長からの手紙になりますが、よくお読み頂き、日本大使館の方にもお見せ頂^{ほう}けましたなら、また私の為に大事に取っておいてくださいます様お願いします。それでは、私からヴェネツィア市長に貴兄が担当する旨、願い出ても宜しいでしょうか。

お宅までお伺い致しませんでしたのは、一週間前から酷く風邪を引いておりまして、自宅での静養を余儀なくされているからです⁽¹³⁾。」

2通目の手紙の文面にある様に、ゴンクールは林が協力して呉れるのではないかと期待している調子が伝わって来る。グリマーニの依頼に、ゴンクールは前向きであったことが分かる。次に、林忠正の返信を見てみよう。関係箇所のみ記す。まず1通目。1896年3月15日、日曜日付の書簡から。

箇所¹³の和訳がある。

(13) 2通の和訳は以下の原文に拠った。Alain Barbier Sainte Marie, « Lettres d'Edmond de Goncourt à Hayashi Tadamasa », *Cahiers Edmond et Jules de Goncourt*, n° 4, 1995-1996, p. 184.

「我が親愛なるド・ゴンクール先生

先生のお名刺並びにヴェネツィアからの書簡、嬉しく拝読致しました。
ヴェネツィアでの展示が可能だとは、私には思われません。ですが、これ
から問題を精査し、然る後、先生に最終的な御返事を致したく思います。
書簡の方は写し終りましたら、先生にお戻し致します。」

ヴェネツィアからの書簡が林の手元に届いていることから、上記のゴンクールの2通目の手紙が林の手元に届いた後の返信であると分かる。また、ゴンクールの2通の手紙は、ゴンクールが『日記』にグリマーニから手紙を受け取った旨を記した1896年3月2日から、上記の林書簡の日付である1896年3月15日の間に書かれ、出されたものと分かる。次に1896年3月23日、パリで認められた2通目の林書簡を見る。

「我が親愛なる先生、

熟慮致しましたが、ヴェネツィアに出向ける可能性はないかと存じます。従いまして残念では御座いますが、最終的にご辞退致します。ヴェネツィア市長からの書簡をご同封の上、ご返却致します。遅くなりましたこと、ご寛恕ください⁽¹⁴⁾。」

興味深いのは、1896年3月23日の日付が、このあとに紹介する、フィリッポ・グリマーニからゴンクールに宛てた2通目の手紙と同じ日付であることだ。これは偶然であるが、グリマーニがゴンクールからの返事を待ち切れず、催促の手紙を出したもので、ゴンクールが林の意向を窺っている事情をヴェネツィア側が知らないことを如実に認識させられる。

(14) 2通の訳は以下の原文に拠った。ジョヴァンニ・ペテルノッリ、前掲論文、63号、14頁。

フィリッポ・グリマーニからエドモン・ド・ゴンクールへの書簡の和訳

1 通目

ヴェネツィア, 1896年2月29日

拝啓,

個人的には先生のことを存じ上げないにも不^{かかわらず}拘^{わたくし}, 私たちの土地で極めて大きな関心と呼び覚ました藝術的企てへのご協力をお願い致し^た度く, お問い合わせ申し上げます。

昨年のことですが, ヴェネツィア市は国際美術展覧会を開催し, 大きな成果を得ました。市議会は, この成果を是とし, 満場一致にて, 1897年(4月22日～10月31日)に二回目の展覧会を開催する旨, 決定致しました。

ヴェネツィア市は, 世界の方々から心からの共感をお寄せ頂けるのは, ^{ひとえ}偏にその藝術のお陰であると存じており, 現代の時代精神^{のつと}に則りつつ, その気高い伝統を改めて世にお示し出来ますことを誇りに存じます。然^{しか}して, ヴェネツィア市は, 作品の数は絞り込まれるものの高度に洗練され, 繰り返し開催される展覧会にて, 定期的に現代の優れた才能の作品を選りすぐって取り纏めていく所存です。

さて, 次回の展覧会に於きましては, 日本美術に一部屋を割り当てたいと考えています。そこで, 先生と先生の今は亡き弟君がヨーロッパに初めて, その^{まが}紛う方なき真正さに於いて実に繊細, 実に巧緻なる, この美術を知らしめたことから, また先生がその沢山の洗練された作品を, 何時も変わらぬ洞察力で描写されて来られたことにより, 誠に勝手ながら私は, 私たちの日本部門に真^{しん}に格別なお墨付きを与えたいが為に, 先生のご意見をお伺い致したく存じます。それと申しますのは, 先生になら, 雑貨店で小売りされている様な安物の日本美術を私たちが日本から欲しているのではないことを, 深くご理解頂けるからです。

先生、その様な次第ですので、以下の様なご質問を申し上げることをお許しください。

其の一。個々に招待状をお届け頂けそうな日本の藝術家の名前を私どもにおし頂けますでしょうか。(私たちの展覧会に招待される藝術家の作品は、輸送や荷ぼどき、再梱包に至るまで、経費は全てこちら持ちとなります。)

其の二。厳選しつつも、制限のある展覧会で、代表されるべき藝術の分野をご特定頂けますでしょうか。

其の三。先生ご所有の美術品の中の幾つかを、^{うち} 私たちにお貸し出し頂く訳には参りませんでしょうか。勿論、市の方では細心の注意を払いつつお品物をお守りし、また輸送やご保証に関する全ての経費もご負担申し上げる所存です。

恐らく、^{やや} 少々不躰なお申し出をしまっているかとも思います。ですが、その人生もその高い知性も常に藝術の為に捧げられ、藝術の名の下にならば如何なるご質問をすることも許される作家に対してお問い合わせしているのだと云うことを、私はご承知致しております。

先生、何卒、ヴェネツィア市とヴェネツィアの藝術家たちの感謝の気持ちをお受け取りください。

敬具

ヴェネツィア市長

第二回国際美術展覧会委員長

F (フィリッポ)・グリマーニ

事務総長

A (アントーニオ)・フラデレット⁽¹⁵⁾教授

(15) Antonio Fradeletto (1858-1930)。当該記述は以下に拠った。石井元章、前掲書、313頁。また Margherita Cavenago, *op. cit.*, p. 166でも当該記述は確認出来る。更に石井元章、前掲書、164頁にはフラデレットに関し、「ヴェネツィ

2 通目

ヴェネツィア, 1896年 3 月23日

親愛なる先生,

2 月29日付の私の書簡^{わたくし}が先生のお手元に届きましたかどうかお尋ね申し上げます。どうか私の御無礼をお許してください。ですが、私どもに於きましては、時が切迫しておりますと共に、市の方では先生のご協力を最重要視致しております故、僭越ながら懇願申し上げる次第であります。それは私が先生にお示し致しました全てのご質問への最終的なご回答を今すぐご頂戴する為ではなく、私のお願いが先生のお手元にまで届き、また先生の御助言並びに御協力を仰ぎ得ることの確証^うを得る為であります。

恐らく、日本の展示の為の特別な後援委員会が結成されるかと思いますが、その節は、先生にも勿論、お加わり頂くことになります。

親愛なる先生、何卒私の感謝の念をお受け取りください。

敬具

ヴェネツィア市長

第二回国際美術展覧会委員長

F (フィリッポ)・グリマーニ

以上2 通からは、グリマーニ市長がジャポニズムを牽引して来たゴンクールに抱く敬意と期待が強く感じ取られる。1 通目には具体的な依頼の際の3 条件が列挙されるなど、ゴンクールが期待に答えてくれることを前提とした記述があり、2 通目にも委員会設立の際にはゴンクールに加わって貰

ア大学文学部教授で、当市有数の博識者として知られていた」とある。

いたい旨を記すなど、矢張りこの段階でも良い返事を待つ市長側の期待が生き生きと伝わって来る。結局、ゴンクールはグリマーニに断りの手紙を送ったと考えられるが、ヴェネツィアで調査した石井元章氏はその返事の手簡類がまだ発見されていない旨を記している⁽¹⁶⁾。もし林忠正の協力が得られ、エドモン・ド・ゴンクールがフィリッポ・グリマーニの期待に応え得ていたら、と想像すると、興味尽きぬ空想へと誘われる。それでは以下に、2通のグリマーニ書簡のフランス語で書かれた原文を記して本論文を締め括ることとする。

フィリッポ・グリマーニからエドモン・ド・ゴンクールへの書簡の原文

1. De Filippo Grimani à Edmond de Goncourt

Venise, le 29 février 1896⁽¹⁷⁾

Monsieur,

Sans avoir l'honneur de vous connaître personnellement, j'ose m'adresser à vous pour vous demander votre appui dans une entreprise artistique qui a éveillé dans notre pays le plus grand intérêt.

L'année dernière, la ville de Venise a organisé une exposition internationale des beaux-arts, laquelle a eu des résultats éclatants. Le conseil municipal en constatant avec la plus haute satisfaction ces

(16) 石井元章, 前掲書, 164頁参照。

(17) Aut : BnF, n.a.fr. 22479, f^o 387-388. 便箋の左上に「SINDACO DI VENEZIA」(ヴェネツィア市長)のレターヘッドあり。1葉目の下部に「À Monsieur Edmond de Goncourt Auteuil (Paris)」(パリのオートゥイユの, エドモン・ド・ゴンクール氏へ)の記述あり。本書簡は3葉から成る。

résultats, a délibéré, à voix unanimes, d'ouvrir une deuxième exposition en 1897 (22 avril-31 octobre).

Venise, qui sait devoir surtout aux arts la cordiale sympathie dont elle jouit dans le monde, serait orgueilleuse de pouvoir reprendre sa noble tradition, d'une manière conforme à l'esprit de notre temps. C'est pour cela qu'elle se propose de recueillir périodiquement les productions les plus choisies du génie moderne dans une série d'expositions limitées quant au nombre des œuvres, mais d'une distinction exceptionnelle.

Or, dans l'exposition prochaine, nous voudrions réserver une salle à l'art du Japon. Et comme vous et votre regretté frère avez été les premiers à faire connaître à l'Europe cet art si délicat et si savant dans sa sincérité parfaite, comme vous en avez décrit avec votre pénétration habituelle tant de créations exquises, je prends la liberté de vous demander votre avis, dans le but de donner à notre section japonaise un cachet vraiment distingué, car vous comprenez bien que nous n'en voulons pas du Japon de pacotille qu'on débite dans les bazars.

Permettez-moi donc, Monsieur, de vous soumettre les questions suivantes :

1^{ère}. Pourriez-vous nous indiquer des noms d'artistes japonais auxquels remettre des invitations personnelles ? (Les œuvres des artistes invités à notre exposition sont exemptés de tous les frais, soit de transport, soit de déemballage et de réemballage).

2^{ème}. Voudriez-vous nous spécifier les genres d'art qui devraient être représentés dans une exposition restreinte mais bien choisie ?

3^{ème}. Seriez-vous disposé à nous prêter quelques-uns des objets d'art que vous possédez ? Naturellement la municipalité les garderait avec les plus grands soins et prendrait sur elle tous les frais de transport et d'assurance.

Peut-être suis-je un peu trop indiscret. Mais je sais que je m'adresse à un écrivain dont la vie et la haute intelligence ont été toujours vouées à l'art et auquel au nom de l'art on peut tout demander.

Veillez agréer, Monsieur, les remerciements de la municipalité et des artistes vénitiens, avec l'assurance de ma profonde et reconnaissante considération !

Le maire de Venise,
Président de la II^{ème} exposition internationale des beaux-arts.
F[ilippo]. Grimani

Le secrétaire général,
Prof[esseur]. A[ntonio]. Fradeletto

2. De Filippo Grimani à Edmond de Goncourt

Venise, le 23 mars 1896⁽¹⁸⁾

Cher Monsieur,

Permettez-moi de vous demander si vous avez reçu ma lettre du 29 février. Veuillez excuser, je vous prie, ma liberté ; mais comme le temps nous presse et comme la municipalité fait le plus grand cas de votre

(18) Aut : BnF, n.a.fr. 22479, f° 389. 便箋の左上に「SINDACO DI VENEZIA」のレターヘッドあり。

concours, j'ose insister non pas pour avoir dès à présent une réponse définitive à toutes les questions que je vous ai posées, mais pour être bien sûr que ma prière vous est parvenue et que vous êtes disposé à nous prêter votre conseil et votre appui.

On pourrait peut-être former un comité spécial de patronage pour cette exposition japonaise, et dans ce cas vous en seriez, naturellement.

Veillez agréer, cher Monsieur, mes remercîments et l'assurance de ma plus haute considération.

Le maire de Venise,
Président de la 2^{ème} exposition internationale des beaux-arts,
F[ilippo]. Grimani